

令和4年度「生活者としての外国人」のための日本語教室空白地域解消事業
「日本語教室開催に向けた研究協議会」－空白地域における課題を議論する－

大学と連携した市内の空白区に対する 日本語教育におけるオンラインの活用



(公財)浜松国際交流協会 地域日本語教育コーディネーター 染葉麻愛美

令和5年1月26日(木)



団体概要



運営を委託
→
←
専門的知見



1. 多言語相談・相談提供
2. 地域共生事業
3. 多文化防災事業
4. 人材育成事業
5. 多様性を生かしたまちづくり事業
6. 多文化共生理解促進・活動支援事業



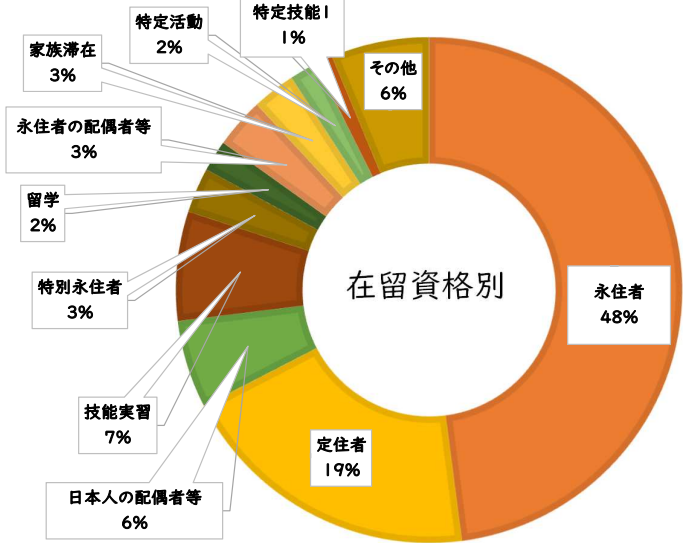
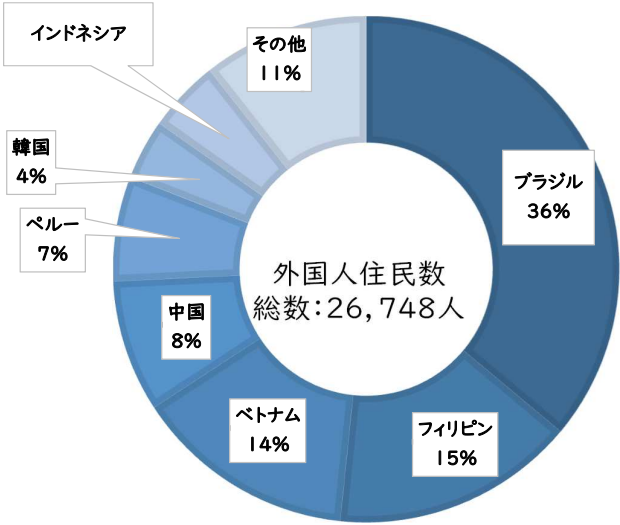
1. 日本語学習支援講座
2. 日本語学習支援者養成講座
3. 地域日本語学習支援事業
4. 多文化体験・交流事業
5. 外国につながる次世代の学習支援事業
6. 外国人の子どもの不就学ゼロ作戦事業
7. 地域日本語教育体制づくり

現浜松国際交流協会天竜事務所
(旧天竜国際交流協会)

1. 日本語教室
2. 英会話教室



浜松市概況



浜松市ホームページ 住民基本台帳 (2023年1月1日時点)
https://www.city.hamamatsu.shizuoka.jp/gyousei/library/I_jinkou-setai/005_kubetsu.html

浜松市国際課提供 (2022年4月1日時点)



浜松市天竜区の概況

	浜松市全域	天竜区
面積	1558.06km	943.84km
世帯数	351,529世帯	12,031世帯
日本人住民数	765,986人	25,833人
外国人住民数	26,748人	398人

浜松市ホームページ 住民基本台帳 2023年1月1日時点
https://www.city.hamamatsu.shizuoka.jp/gyousei/library/I_jinkou-setai/005_kubetsu.html



天竜日本語教室（通常）

時間 日曜日10:00～11:30(1.5h)
会場 地域の協働センター
形式 対面でボランティアによる寄り添い型支援
人数 ボランティア4名ほど、学習者6名ほど
内容 学習ニーズに合わせマンツーマン・小グループ



学習支援者の担い手の**高齢化**に伴い
教室継続が課題だと相談が寄せられる



協会が持つ日本語ボランティアバンクを通じて
日本語教師やボランティアを募集



新しい担い手が**集まらない**・・・

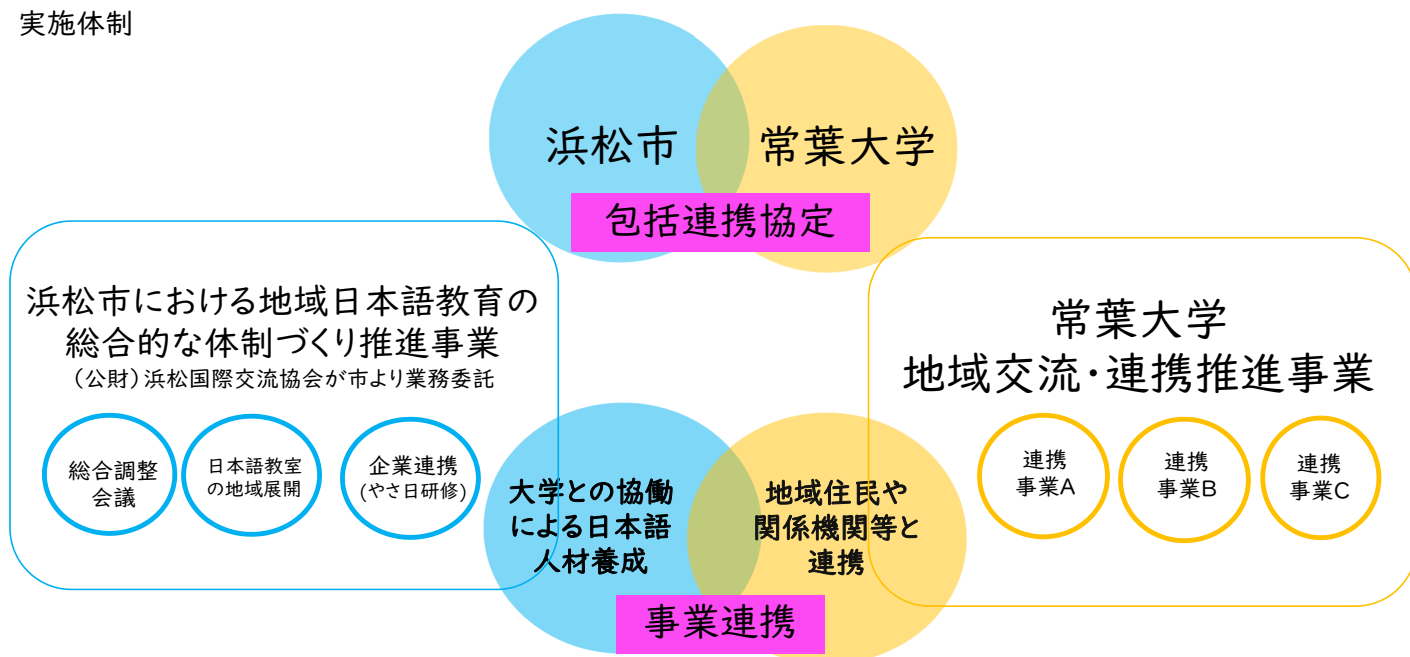
- ✓ 地理的な条件が人材確保に大きな影響を与えている！
- ✓ 既存のマンツーマンの学習支援方法では、常にマンパワー不足!?



- ・ICTを活用した**新しい支援方法の模索**を始める
- ・日本語教員養成課程を指導する**常葉大学教員に相談**

新型コロナウイルスによるパンデミック

実施体制



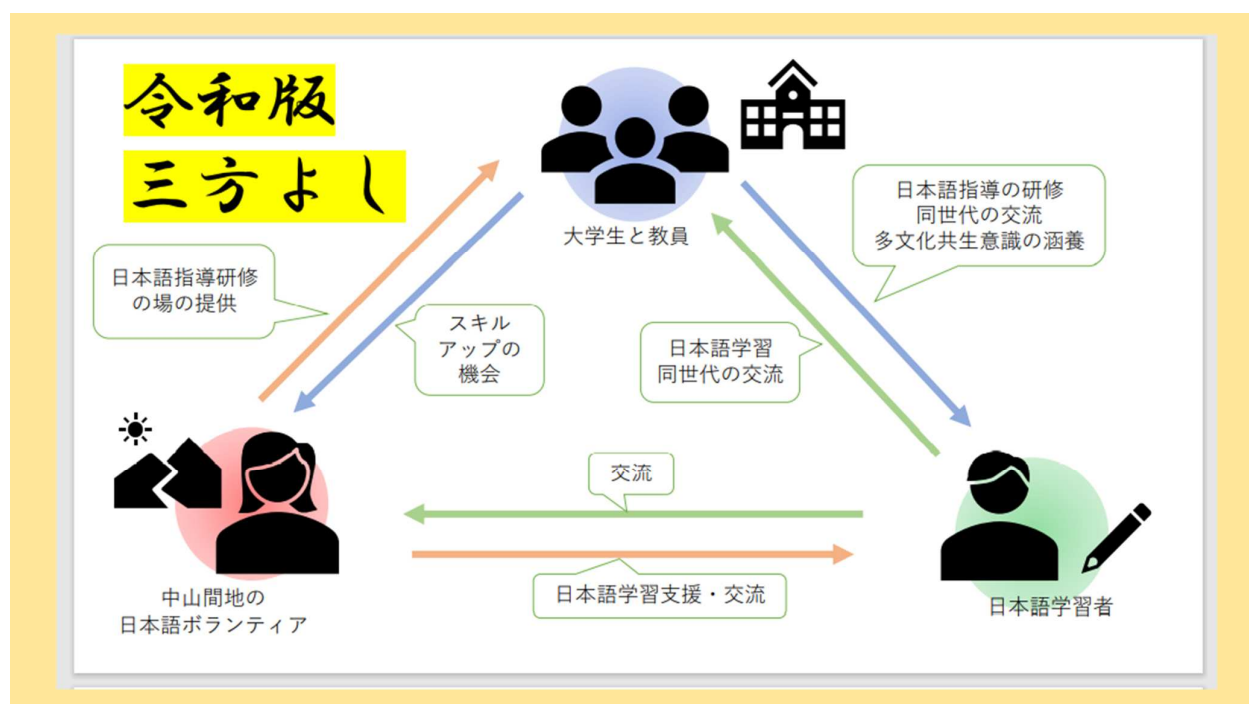
浜松市ホームページ 包括連携協定 <https://www.city.hamamatsu.shizuoka.jp/kikaku/sdgs/kyoutei.html>

常葉大学ホームページ 地域交流・連携推進事業 https://www.tokoha-u.ac.jp/community/chiiki_syakairenkei/activity_20/



7

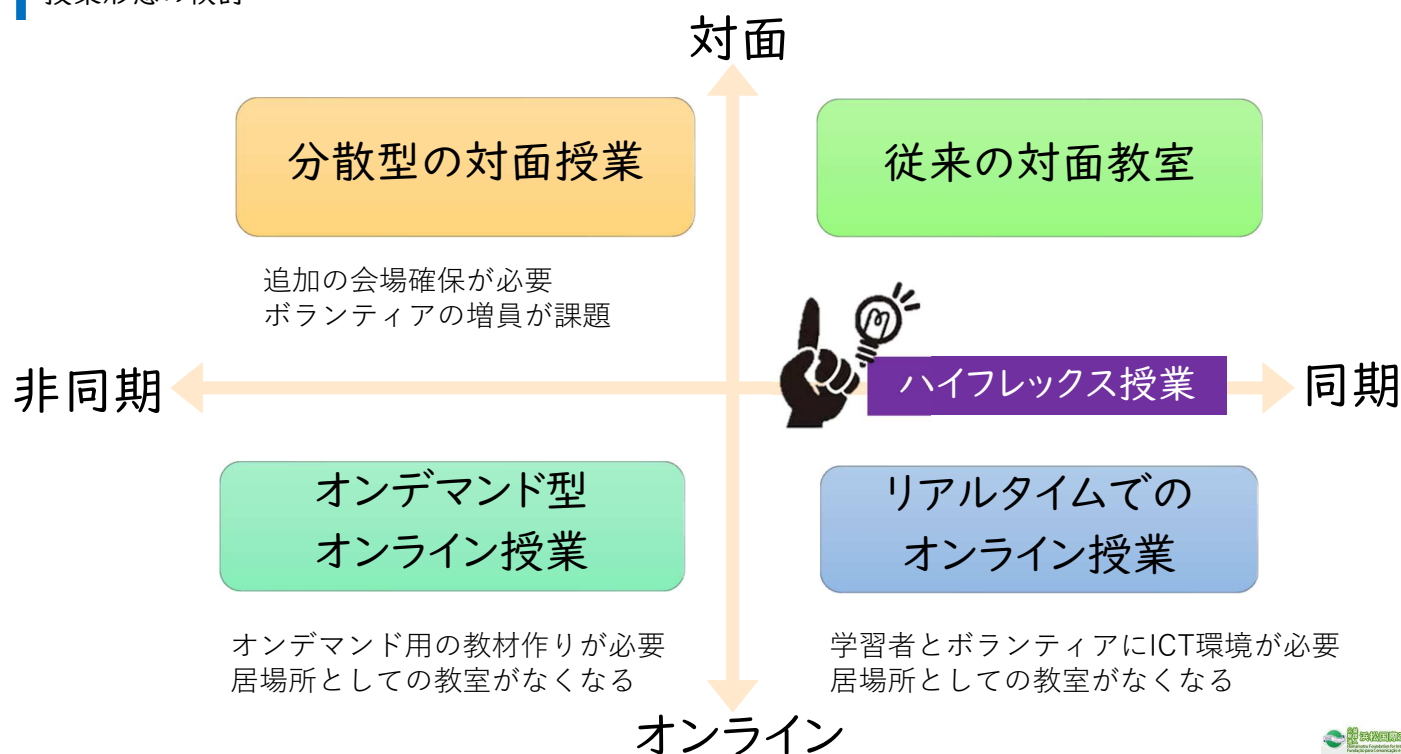
大学との地域連携事業



出典：内山夕輝（公益財団法人浜松国際交流協会）「地域日本語教育における ICT 活用の事例と課題」2021年,10ページ
令和3年度多文化共生の担い手連携促進研修会 一般財団法人自治体国際化協会
https://www.clair.or.jp/j/multiculture/docs/03_HICEeditedninaite.pdf



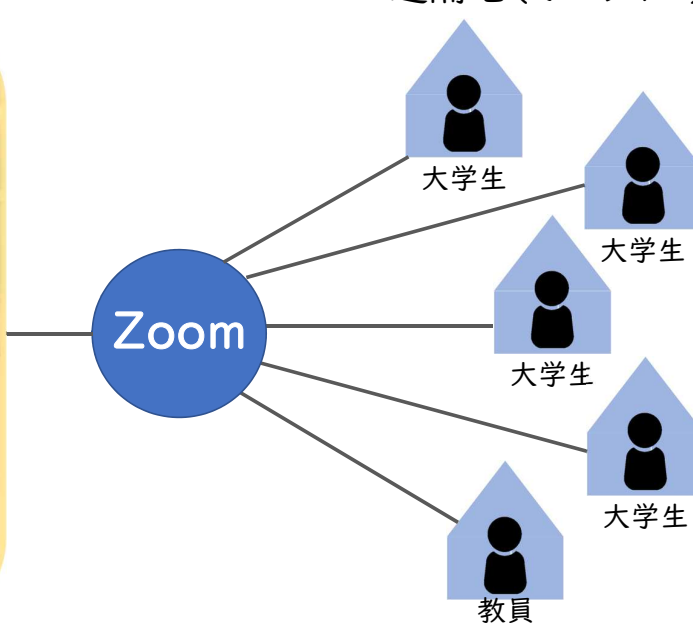
8



教室会場(対面)

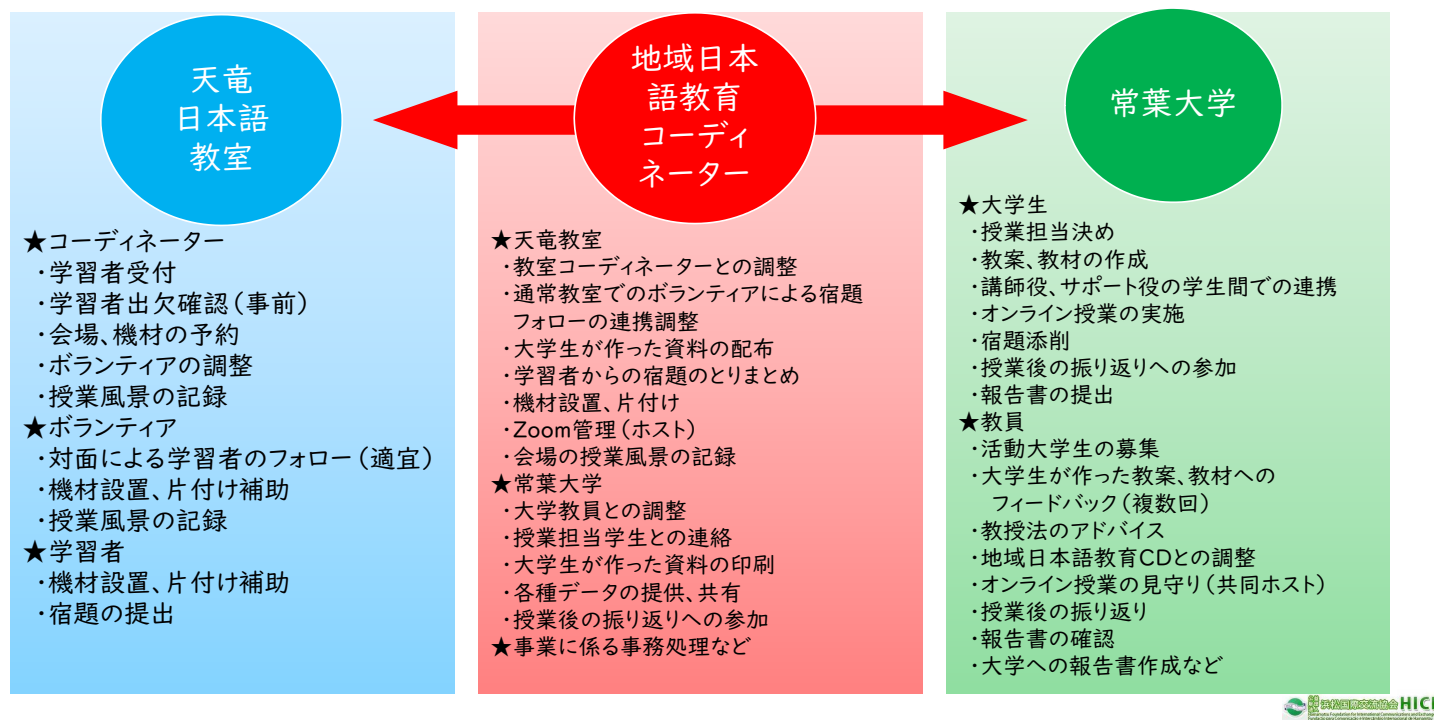


遠隔地(オンライン)



ハイフレックス (Hybrid-Flexible) 形式・・・対面型(天竜日本語教室)+オンラインによる同期双方向型

連携事業内容



11

連携事業内容

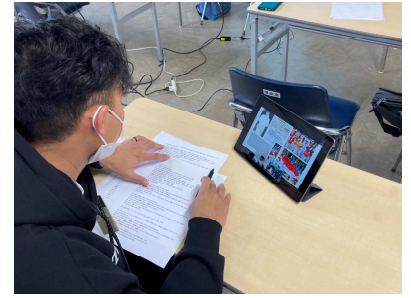
	令和2年度	令和3年度	令和4年度(実施中)
授業内容	いんどり生活の日本語初級Ⅰ (国際交流基金)	前半:いんどり生活の日本語初級2 (国際交流基金) 中盤以降:Show&Tell形式のスピーチとポスター交流に向けた学習	Show&Tell形式のスピーチとポスター交流に向けた学習
実施数	6回	9回(内2回発表会開催) ※緊急事態宣言により1回中止	10回(内2回発表会の予定)
常葉大学生	8名 (外国語学部6名、経営学部2名)	8名 (外国語学部7名、経営学部1名)	10名 (外国語学部10名)
常葉大学教員	2名(坂本勝信教授、谷誠司教授)		
学習者	5~8名 (タイ、インドネシア、ベトナム、ブラジル、中国)	4~9名 (インドネシア、タイ)	10~15名 (インドネシア、タイ、ベトナム)
日本語ボランティア	3~4名	2~3名	3~4名
HICEコーディネーター	2~3名	2~3名	2名

12

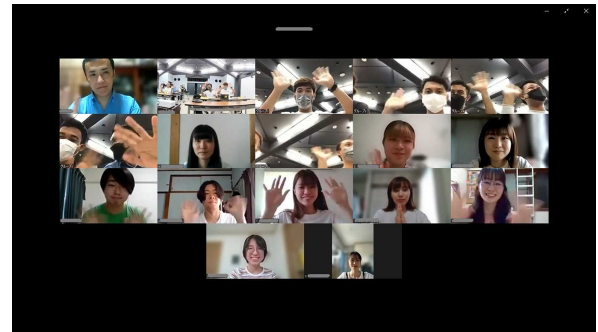
連携事業内容



学習者、ボランティア、コーディネーターが集まる教室会場の様子
・全体授業のときは正面に授業スライドや大学生講師たちが映る

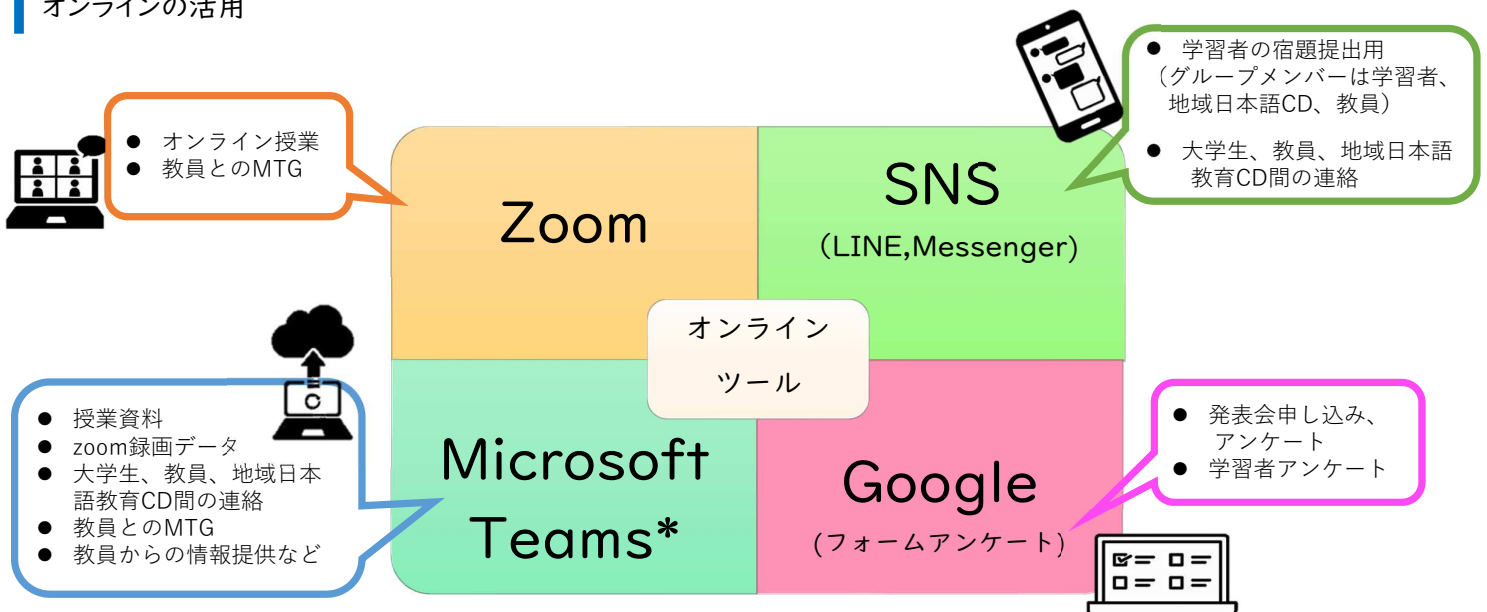


↑グループ活動の様子



↑2022年6月、第1回授業終了時の様子

オンラインの活用



*常葉大学内で使用しているTeamsに教員が、天竜ICT専用グループを作成。外部団体所属の地域日本語教育CDは招待してもらい専用グループへ参加。

成果

- ・生活者である学習者は職場や生活で活かせる日本語を、日本語教員養成課程を学ぶ学生から体系的に学ぶ機会を提供することができた。
- ・通常の日龍日本語教室との連携を深めることで、学習者への呼びかけ、宿題のフォローが手厚くなった。
- ・大学生は地域日本語教室での活動を通じて、学習者を対象とした日本語研修の機会が得られ、教授スキルを磨くことができた。また、多文化共生意識の涵養の機会となった。
- ・次世代の日本語教育を担う金の卵に地域日本語教育へ関心を寄せてもらう契機となった。

課題

- ・既存の場や支援者の存在をベースに緩やかにオンラインへ移行していくのか見極めていく必要がある。
- ・教員が指導助言している授業については、学生の教育実習として単位認定されることを切望する。生活者の日本語特徴を理解できる日本語教師の増加につなげたい。

ご清聴ありがとうございました

大学と連携した市内の空白区に対する日本語教育におけるオンラインの活用

(公財) 浜松国際交流協会 地域日本語教育コーディネーター 染葉麻愛美

HAMAPO



Facebook
HICE



Facebook
U-ToC



Youtube



Instagram

